

十月十二日

早朝より大学で会議、来客、学生相談、製図指導。夕方前稲門建築会会長櫻井清氏通夜。櫻井さんは本当に穏やかな紳士だった。会長職に誠に適した方であった。ここ十年稲門建築会の再生に関して私なりに責任を果たしたつもりだが、櫻井さんの穏やかさがあって初めて私なりの改革ができたのは確かな事だった。これからのOB会の運営は非常に困難なものになるだろうが、二年間は嘉納さんにバトンタッチする。四年後にはチョツとし残した事がある。何らかの形で又、戻るつもり。夜、西調布中川さんのところで聖徳寺霊園の契約に関して最終のつめ。この建築計画に関しては細心の注意を払って施工計画をつくりあげることが先決だ。

十月十三日

午前、太田浩史伊藤香織結婚式。太田君は太田邦夫先生の次男。伊藤君は私のワークショップの生徒。共に東大生産研卒。二人共これまでスクスク育ってきた。何の障害も恐らくは無かったのだらうと思う。良い人柄、良い知性の持主だと知れる。しかしナア。良い人間が良い建築を作ることには先ず無いんだナア。しかし良い家庭で育った人間の何がしかは音楽の径を選ぶのが不思議だ。太田さんの三男はどうやら音楽畑に進んでいるらしく、繊細でくっ折した人間に育っているように思った。我家の三人のガキはどうなっただけのやら。

夕方、小笠原さん渋谷さんの奥さん世田谷村来訪。家を案内してから宗柳へ。小笠原さんの反応が面白い。日本に帰って電車に乗っても街を歩いていても吊し広告をはじめとして全ての情報が読めて理解できてしまうのが何とも不思議だと言っていた。という事はカンボジア、タイでは抽象的な記号の群の中に漂っている日常なんだ。小笠原さん意外や意外、現代的なスタイルで生きているんだという事がわかった。宗柳の新ソバ、今日のは本当にうまかった。マダム渋谷に頼んでカンボジアの匂い草の種を大使館でもらって、屋上で自裁しようかと思いついた。ハスの実も欲しい。屋上に秘かな東南アジア風菜園があるつてもイイぜこれはあんまりヨカないか。一昨日であったか、気まぐれで買いだめしていた金魚草、八重矢車草、支那わすれな草おまけにスイトピーまで屋上にまいてしまったから。まことに私は種まきまでも非方法的だ。